

登録番号 13 — 012
氏名 小野 千佐子

登録番号 13 — 020
氏名 原田 充啓

登録番号 13 — 037
氏名 林 久善

大阪市地域公共人材活動報告書

記

- 1 派遣日時 令和3年5月17日（月）15:00～16:50
(第2回派遣)
- 2 派遣場所 一般社団法人あおぞら湯
- 3 参加人数 5名（内訳：依頼団体1名、公共人材3名、大阪市市民局1名）
- 4 開催方法 コロナ禍における対応として、基本リモート（Zoom使用）【公共人材2名、大阪市市民局1名】とするが、公共人材1名[D氏]は書類閲覧があり派遣場所にて参加
- 5 活動内容

(1) 派遣内容

日ごろの組織運営において、会計などの管理を組織メンバーで共有する必要が出てきており、どのような管理の仕方があるのか事例を学び検討したい。また、自分たちの組織ができること・できないことを明確にして、組織の体制づくりについて検討する会議の支援について、ファシリテーションおよび専門的見地からの助言を行う。

(2) 支援内容（第2回）

① 前回の振り返り

- ・あおぞら湯の冊子を参照にし、スタッフの方から現状認識の聴取（依頼団体参加5名）
- ・slackやLINEを活用し、従事したスタッフから日時と月次の報告されている
- ・各事業の総括及び全体の管理には必ず団体のAさんが関わっている
- ・スタッフは、「団体のAさん」が各種事業での外部（行政）への予算申請、その書面の作成及び報告書の作成で労力をかけている状況を認識している
- ・次回（本日）、公共人材のD氏が書類の閲覧の関係上リモートではなく、現場にて各種書類を閲覧、会議をすすめていくものとし、他のメンバーはリモート参加することとした

② 団体のAさんへの会計事務状況の質疑

（R2年3月期決算書・行政への報告書・出納帳・勤怠資料を参照にしながら公共人材のD氏が進行）

- ・人件費は勤怠管理のソフトを使用、その管理と計算を「団体のAさん」が行っている
- ・R3年3月期決算は現状、税理士と団体のAさんが取組中で5月末には確定の予定
- ・例年、12月の年末の人事費関連の調整、2月～5月にかけて、前半は行政への報告と次年度の申請・後半は決算と申告で労力を要している
- ・行政への報告は4月初めに要請されるが、決算実績が十分反映できない事がある
⇒人件費計算に関し、一定の時間当たり料率ですすめて行う（原価管理の手法）を説明

- ・法人で決算の早期化と法人自身での収支の把握から、会計のクラウドソフトの導入を検討するも、税理士との調整ができない
⇒現状、出納帳を事業担当が記録し、特定担当スタッフがエクセルデータ化しているが、税理士の為に作成、法人自身での収支の把握に繋がっていないと思われる
税理士が使用している会計ソフトは汎用性あるソフトで、コストは要するが購入して、使用することを説明

③ 会議の中からの意見として

- ・今回の会議では、団体のAさんと公共人材メンバーのみで実施した。上記の状況を踏まえて、
スタッフメンバーを交えて、次のような議題をもって会議をしてみてはどうか
ア. 月次の人件費計算について
(人件費計算の特定担当スタッフを決めるに関してなど)
イ. 行政への企画書（予算）作成、申込及び報告書類の作成と提出について
(団体のAさんをアシストまたは代わりに行うことなど)
ウ. 総会の開催での決算報告について
(団体のAさんからの提言で、スタッフへの報告の実施)

④ まとめ

- ・次回の会議において、スタッフを交えて、上記③「ア」と「イ」の会議を行う
- ・上記③「ウ」は別途検討〔(法人内で) 検討して貰う意見がでる〕

⑤ 次回の予定

- ・コロナ禍における対応として、リモート（Zoom 使用）にて実施

6 所感

- ・リモートの関係などで他のスタッフは参加せずに実施したことは、結果として良かったと思う。団体のAさんの本音も聞くことができ、前回のスタッフの皆さんからお聞きしたことについて重ねると、いい仲間として活動されていることがよく理解できた。子育て支援や地域活動を継続的にやっていくには、その運営者たちの組織がいいことが前提なのだと改めて認識した。一方、そのためには助成金等の資金の使用目的に自由度が求められることも理解できた。
- ・次回は、これまで以上にいい組織になるように団体のAさんとスタッフが想いを共有できる場になるように努めたい。

所感

- ・団体のAさんはフラットな組織づくりをすすめ、情報共有を取っている。法人規模の増＝スタッフ人数の増が伴っているので、考え方・思いの目線合わせを行う時期に来ているものと考える。
- ・法人として、外部の金融機関と関わりを持っていくことも視野に入れるなら、日常の会計処理や決算への取組を考えていく必要を踏まえた運営を考えねばならず、特定担当スタッフを置く必要があるも感じている。
- ・次回での会議にて、スタッフの考え方を引き出して、法人の管理運営にとって良いものが醸成できればと考えている

所感

- ・つどいの広場である大阪市の受託事業やその他の子育て支援事業など地域に開かれた公益事業に取り組まれてきたことで、地域にとってかけがえのない存在として「あおぞら湯」が位置付けられているように感じます。
- ・今後、継続・安定、更なる活動の進展のためには、法人としての組織運営面において、事務体制の整備、収益の確保などを取り入れていくことが必要と思われる。
- ・当団体の意向に沿って、団体のAさん及び構成員に適した今後の組織運営についての対話の場を円滑に進められるようファシリテートを行う所存です。